

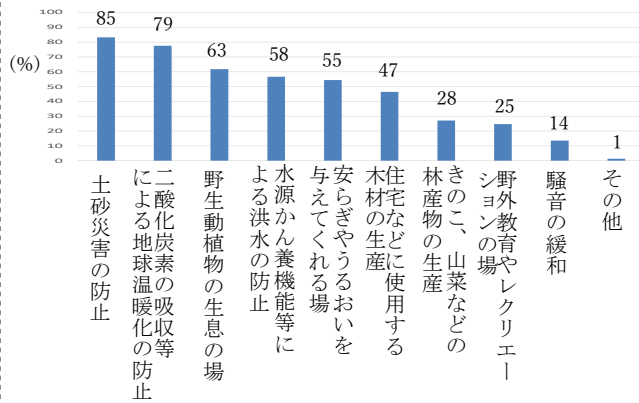
第3章 県民の意見と岐阜県の森林・林業の現状

1 県政モニターアンケート調査結果

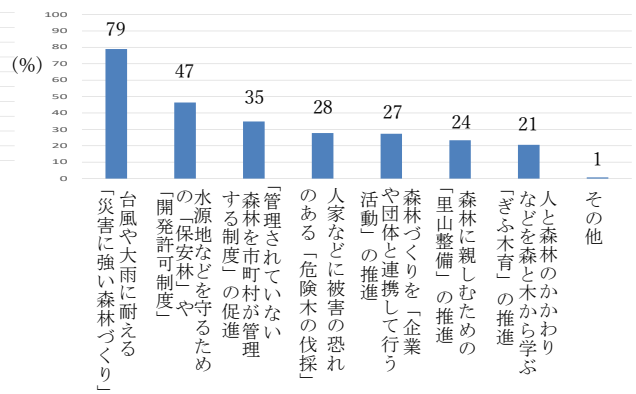
- ・令和2年8月に県政モニターへのアンケート調査（注1）を実施しました。
重要だと思う森林の役割は、「土砂災害の防止」（85%）や「地球温暖化の防止」（79%）など、森林の公益的機能の発揮でした。
- ・重要だと思う森林づくり施策では、「災害に強い森林づくり」が79%と最も高く、林業振興施策では、「技術者の育成・確保」（57%）でした。

◇県政モニターアンケート調査結果

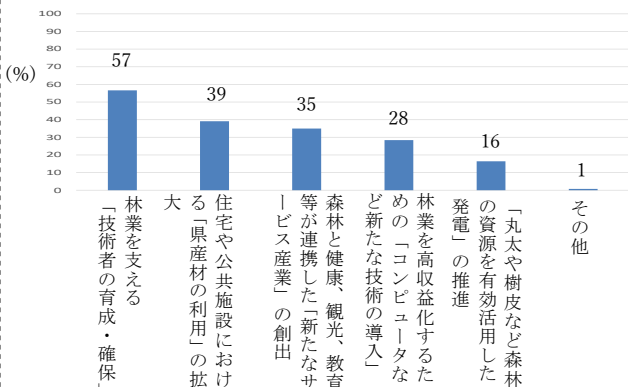
Q1. 重要だと思う森林の役割は？
（複数回答）



Q2. 重要だと思う森林づくりに関する施策は？
（複数回答）



Q3. 重要だと思う林業の振興に関する施策は？
（複数回答）



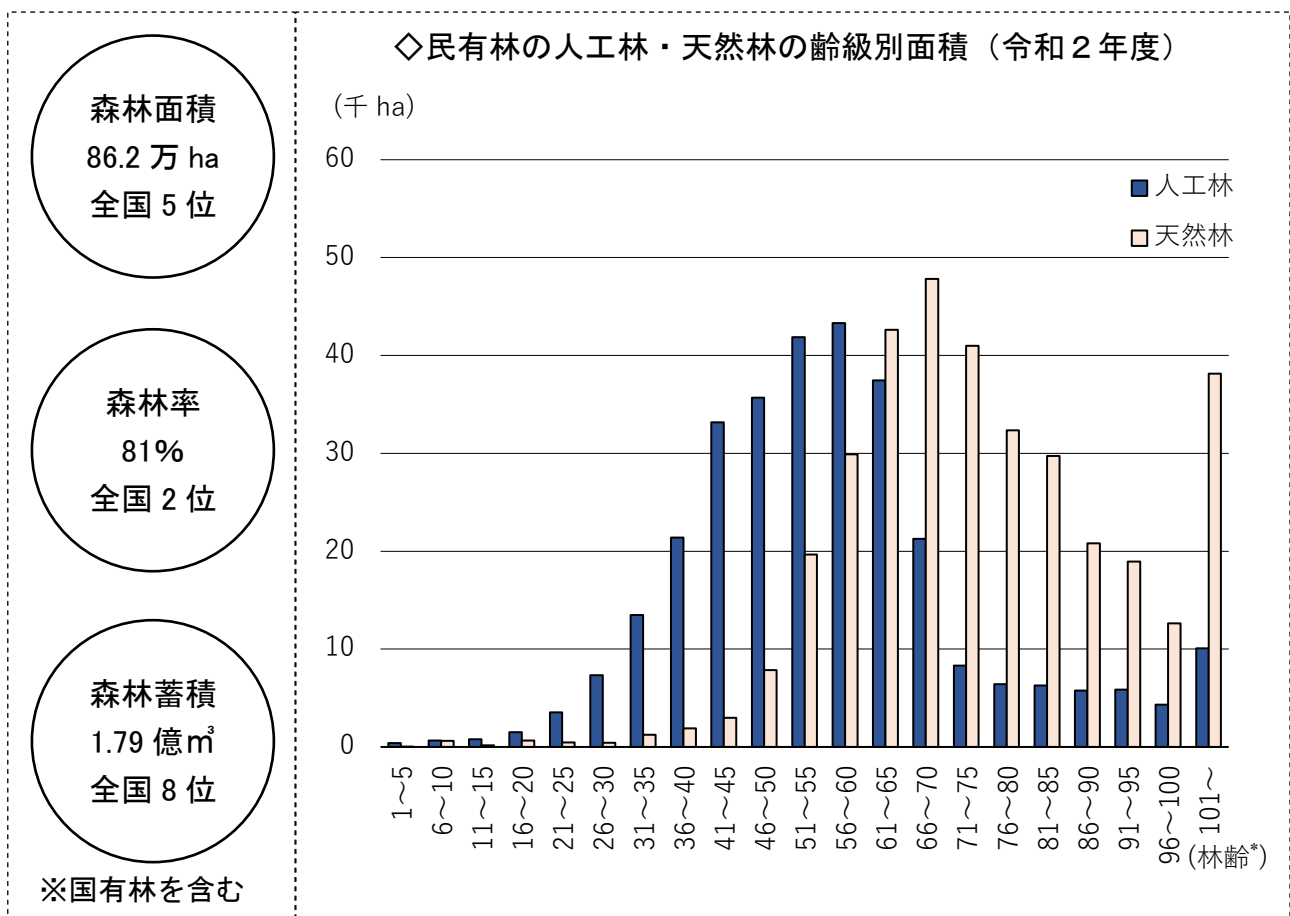
注1：県政モニターアンケート調査

県内在住の一般公募や無作為抽出の承諾者で、県政に関するアンケート等にご協力いただける方（県政モニター）を対象とした調査。
今回は令和2年8月に715名から回答。

2 森林資源の現状

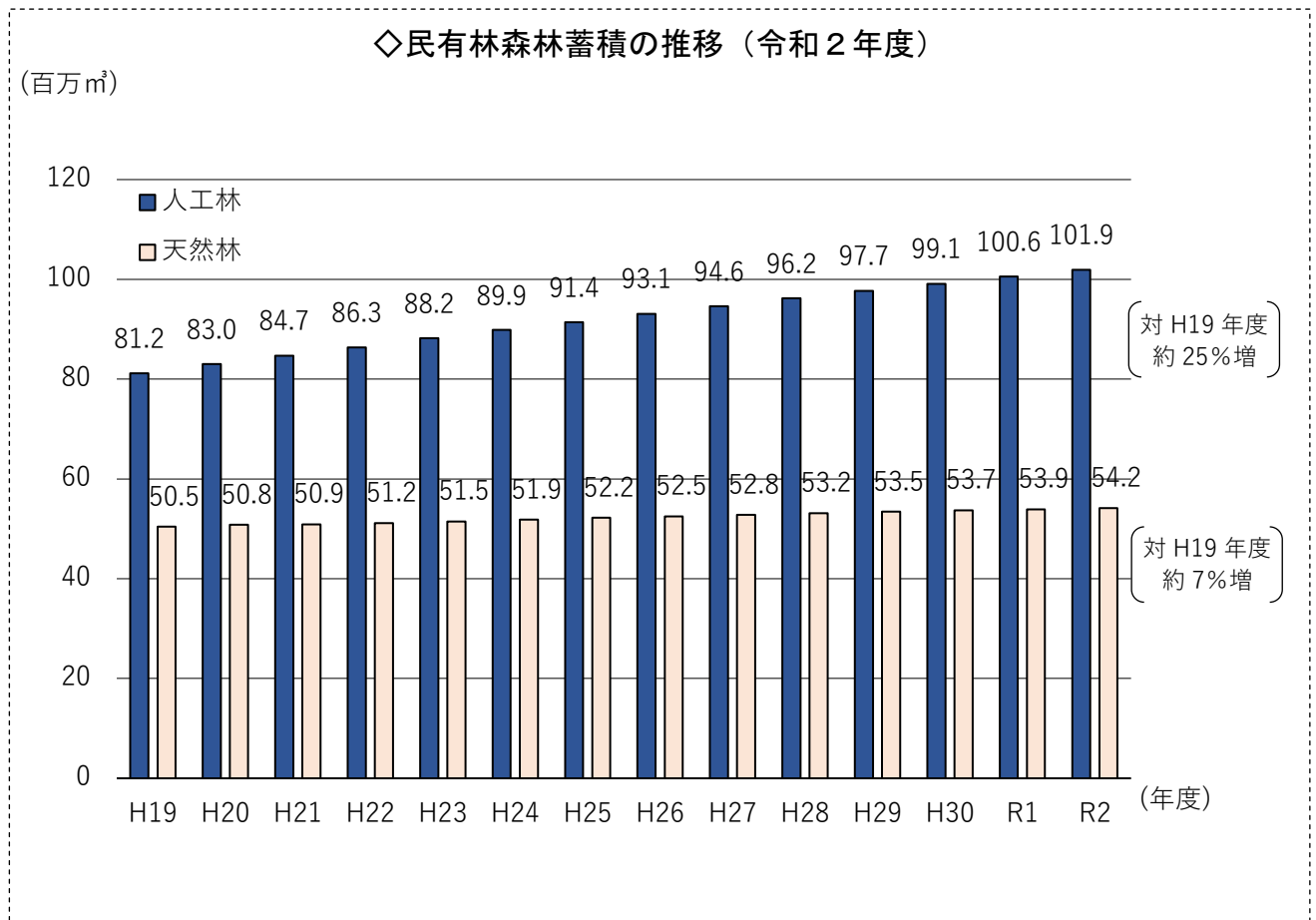
(1) 森林面積等

- ・岐阜県の森林面積は、86万2千ha（全国第5位）で、県土面積の81%（同第2位）を占めています。また、森林蓄積は1億7千9百万m³（同第8位）となっており、全国でも有数の森林県です。
- ・民有林の齢級別面積は、人工林は56～60年生（12齢級*）、天然林*は66～70年生（14齢級）をピークとした分布となっています。



(2) 森林蓄積

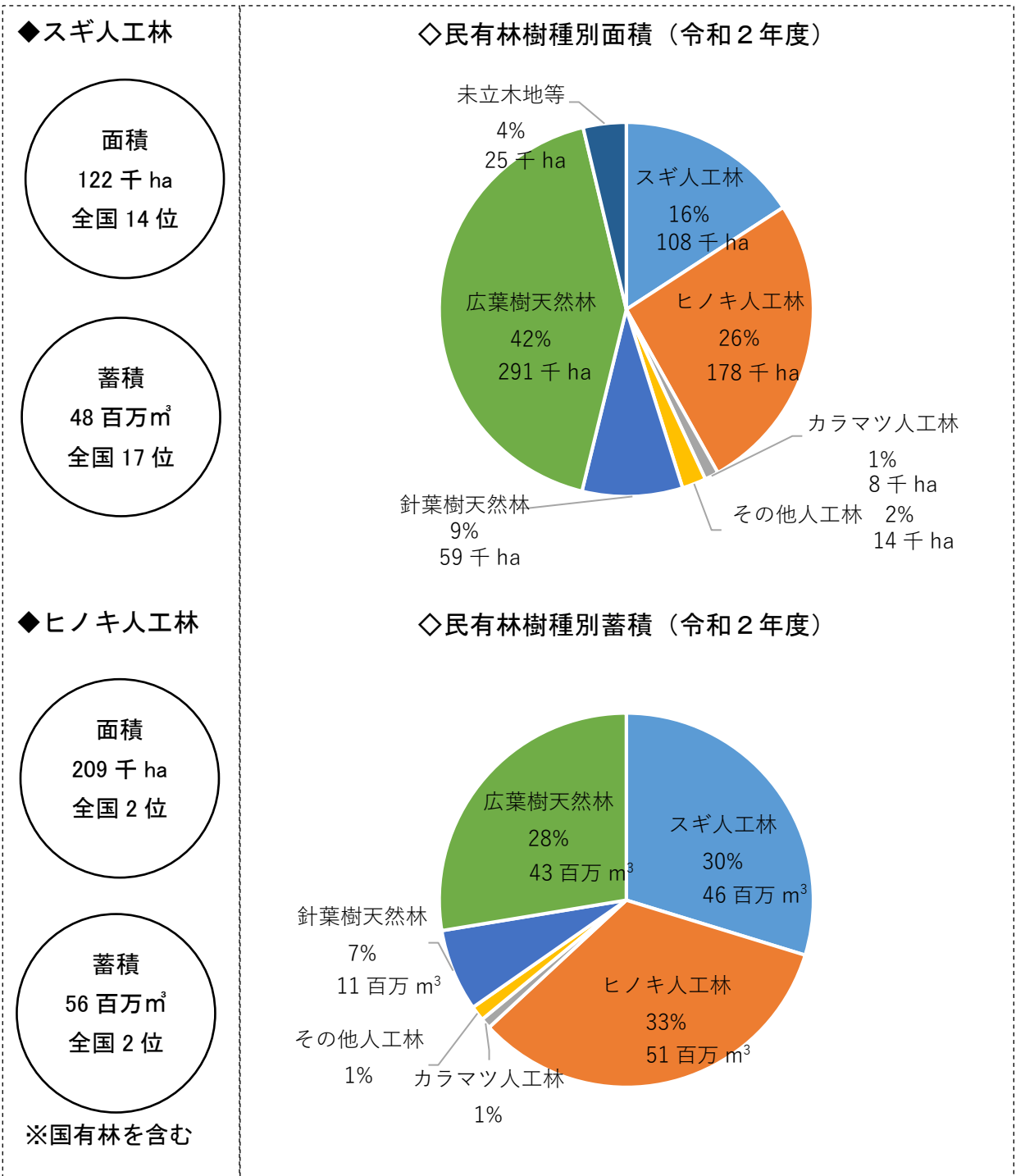
- ・令和2（2020）年度の民有林の蓄積*は、人工林（1億2千万 m^3 ）と天然林（5千4百万 m^3 ）を合わせて1億5千6百万 m^3 で、前年度から160万 m^3 増加しています。これは、岐阜県の年間木材生産量（令和2年：57万6千 m^3 ）を大きく上回っています。
- ・人工林、天然林ともに蓄積は増加していますが、天然林と比べ人工林の方が蓄積の増加量は大きくなっています。



出典：県林政課調べ

(3) 樹種別面積等

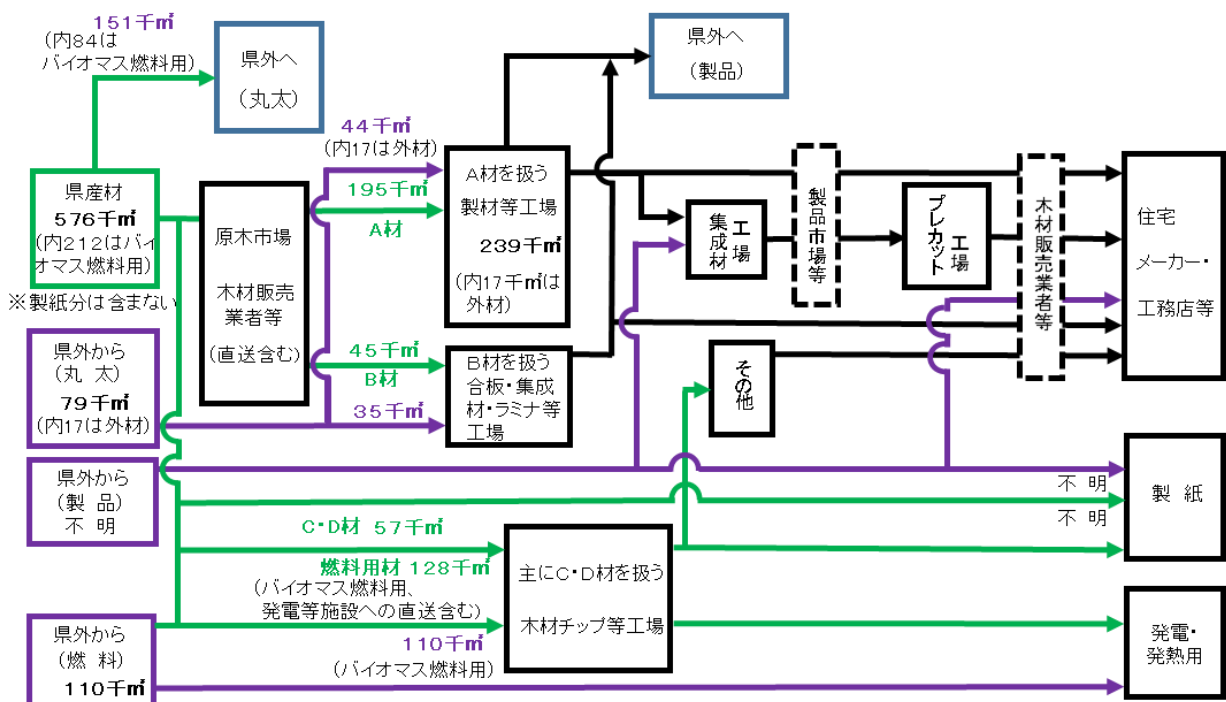
- ・民有林の樹種別面積は、広葉樹天然林が最も大きく、続いて、ヒノキ人工林、スギ人工林の順になっています。
- ・蓄積は、ヒノキ人工林が最も多く、続いて、スギ人工林、広葉樹天然林の順になっています。



3 木材流通の現状

- ・ 県内の木材生産量（令和2年）は57万6千 m^3 で、このうち県内で42万5千 m^3 消費され、県外へ15万1千 m^3 移出されています。一方で、県内で消費されるA材の2割、B材*の4割が県外から供給されています。
- ・ 県内で生産された木材のうち、県内ではA材の8割が製材工場、B材の7割が合板工場、C材の9割がチップ工場などで加工され、需要者に供給されています。
- ・ 製材品、合板*等の部材の9割以上はプレカット*工場で加工され、住宅等の建築現場に納入されています。

岐阜県における木材加工・流通の概観（令和2年）



出典：県産材流通課調べ



原木の運搬状況

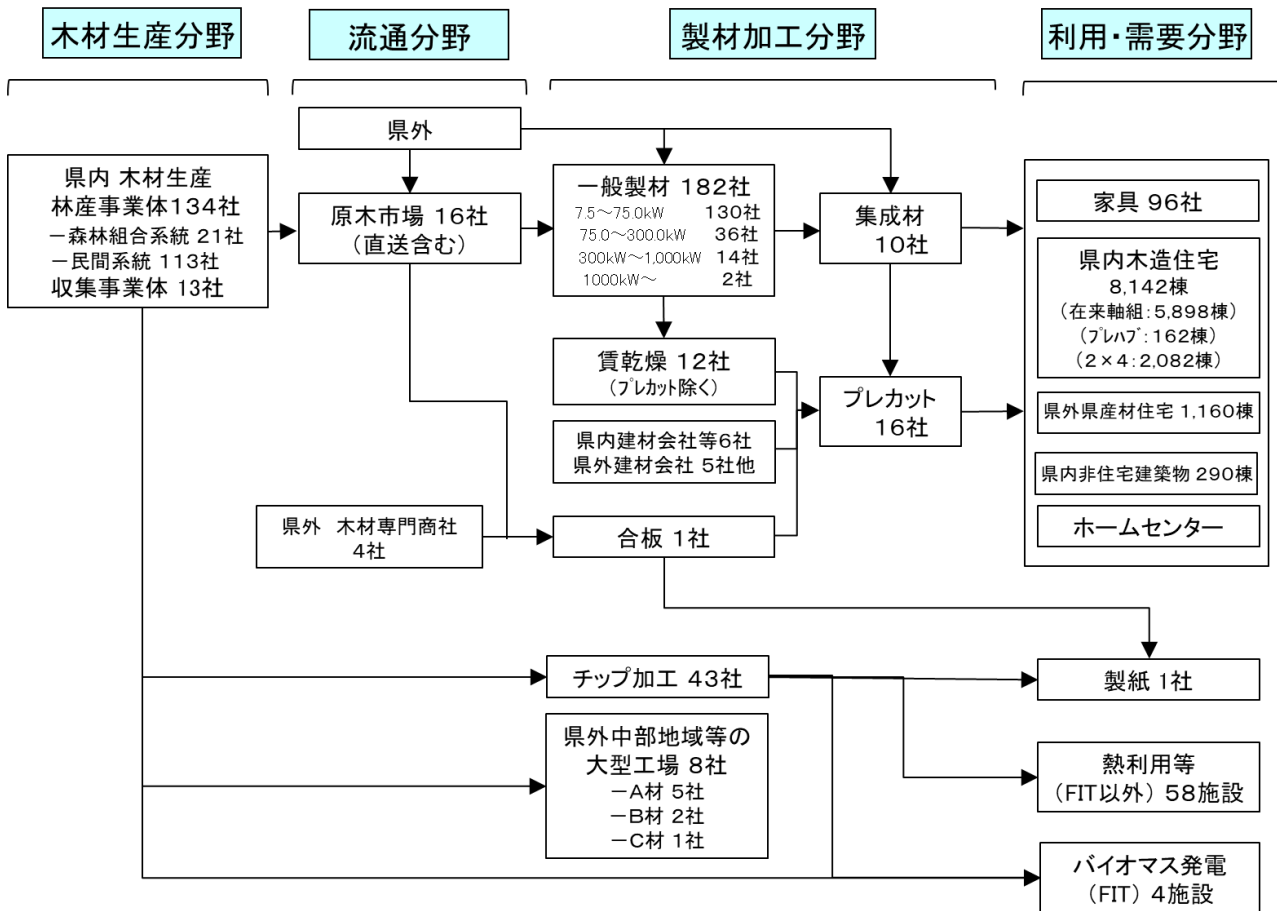


プレカット工場からの邸別発送

4 木材産業の現状

- ・ 林産事業体 134 社、原木*市場 16 社をはじめ、県内外の多くの企業が県産材の生産、流通、加工、そして利用に関わっています。
- ・ 製材工場数は 182 社(全国 1 位)ですが、中小規模の工場が多く、1 工場あたりの原木消費量は全国平均の 3 分の 1 程度です。
- ・ 木材生産分野では上位 5 社で全体の約 3 割を生産しており、製材加工分野では上位 5 社で全体の約 5 割を扱っています。

岐阜県における木材の流れ(令和2年)



※県内木造住宅及び県外県産材住宅数は、令和2年度末の棟数

出典：県産材流通課調べ



製材工場 (大規模工場)



製材工場 (中小規模工場)